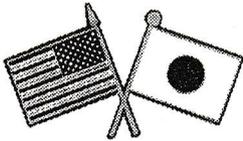


28 NOV 2000



第12号

日米エアフォース友好協会

だより

Japan America AF Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒162-8785 新宿区北山伏町1-5

牛込郵便局留

編集：JAAGA 事務局

印刷：(財) 防衛弘済会

## 在日米軍部隊指揮官交代 CHANGE OF COMMAND

第35戦闘航空団司令（三沢）にアターバック准将  
第18航空団司令（嘉手納）にノース准将



B. Gen. North, Kadena AFB

在日米軍部隊のうち、三沢基地に所在する第35戦闘航空団、及び嘉手納基地に所在する第18航空団の部隊指揮官が夫々相次いで交代した。

第35戦闘航空団の指揮官交代式は、前号「だより」で報じたとおり、6月30日三沢基地において、在日米軍司令官兼第5空軍司令官ヘスター中将を執行官として執り行われ、ウッド准将からアターバック准将へと指揮権が引き継がれた。（アターバック准将の経歴は別掲のとおり。）

第18航空団の指揮官交代式は、8月3日嘉手納基地において、同じくヘスター中将を執行官として執り行われ、スミス准将からノース准将へと指揮権が引き継がれた。スミス准将は、1998年8月から2年間にわたる第18航空団司令としての勤務

を終え、次の補職である米統合軍部隊（ヴァージニア州フォートモンロー基地）の副指揮官へと栄転された。新任のノース准将は、かつて三沢基地において第35戦闘航空団の作戦群司令として勤務したこともあり、また直前まで韓国クンサン基地にある第8戦闘航空団司令の職にあった。指揮官交代式におけるノース准将の着任挨拶並びに経歴を次に掲げる。



Change of Command Ceremony at Kadena AFB

## ノース准将着任挨拶

ヘスター中将、野村大使、増元元空将ならびに我々の良き友である日米エアフォース友好協会の皆様、広瀬陸将補、高橋空将補、半田海将補、グレッグソン少将、アンダーソン少将、ウィルソン准将、シュワルツ少将、仲宗根沖繩市長、山口嘉手納町助役、比嘉北谷町助役、沖繩県代表・親川公室長、那覇防衛施設局代表・横小路部長、マイヤー次席総領事、サリバン大佐、ご来賓の皆様、そして司令官、曹長、下士官長、第18航空団の諸君：

私の今日の気持ちを一言で言い表すとすれば、「光栄」につきます。太平洋空軍で最大のそして最も優秀な航空団を指揮する機会を得ることができ、非常に光栄に思い、また再度太平洋空軍において職務を行うという機会が与えられたことに感謝します。今回で、私の西太平洋地域での任務は4回目となり、私の家族にとっては2回目ですが、私たちはやっと冬にコートのある楽園へとたどり着きました！慈悲深い神様は、ノース家を沖繩、そして第18航空団に送ってくださったのです。そして、これから陸軍、海軍、空軍、海兵隊のプロフェッショナルな隊員達と共に仕事ができることを大変光栄に思っています。更に沖繩の人々と我々の日々の個人的、そして仕事を通じたプロフェッショナルな関係が一層強固なものとなるために、私は、スミス准将そしてジャネット夫人がこれまで築いてこられた傑出した地元との関係を、地元沖繩の指導者の方々と共に継続していくことを大変楽しみにしております。

スミス准将、ジャネット夫人、私とシェリーは、次の赴任先ヴァージニアでのご健闘をお祈り申し上げます。貴殿は第18航空団を力強い成長と発展へと導いてこられました。貴殿のここでの任務はウィンストン・チャーチルの言った「任務を果たした時に感じる達成感、何物にも勝る神からの祝福であり、我々は神に感謝する」という、印象深くまた事実即した言葉に要約されると思います。

第18航空団は、貴殿の優れた指揮統率により、今日においてより優れた航空団に成長しております。



B. Gen. North at Change of Command Ceremony

私も貴殿を賞賛する長い賞賛者リストの1人です。貴方の顕著な指揮統率に対し敬意を表すると共にお礼申し上げます。

さて、今日ここにお集り下さいました多くの来賓の皆様、心から感謝の意を表します。航空機運用、航空機修理といった航空団の職務を遂行しながら、また我々を受け入れて下さっている沖繩の人々と共存し彼らのよき隣人となることは、決して一朝一夕に出来上がったものではなく生やさしい仕事ではありません。我々が常に任務を遂行できる体制を整え、任務の有効性、姉妹軍との関係、そして地元沖繩との協力関係等、全ての分野において改善を継続、増進していくことが重要であり、そのために最善の努力をすることを皆様にお約束致します。

ヘスター中将、貴殿の私に対する信頼と司令官として選んでいただいたことに対し、再度お礼申し上げます。貴殿とリント夫人がこのことをよく知っておられますが、また貴殿の下で仕事をする機会が与えられたことは、言葉に表すとまさに「大役」です。ヘスター中将、本当にありがとうございます。

この式典の準備に携わった関係者、儀仗隊、そして楽団に対し、この式典を忘れぬ行事にしてくれたことに、感謝します。ライス3等軍曹、私が飛行するF15は完璧に見えますね。この戦闘機に乗るのを楽しみにしています。

私たちは、多くの司令官交代式を経験します。正直言って、その交代式で何が話されたか覚えるのは困難です。もし貴方達に今日の交代式から何かを覚えて帰って欲しいと望むとしたら、それは、今日の

他の空軍司令官と同様、任務の遂行と航空隊員諸君に対する献身を最優先させるという私の決意です。

槍の先にいることは、非常に大切な任務です。我々は、お互いに我々の任務の重要性と我が航空団の戦闘役割を理解しています。諸君は、よく知っているように、絶え間ない訓練を要すること、また空軍の羨望的でもあることを知っているでしょう。第18航空団の語りつがれてきた運用の伝説は、世界でも有名で、今日司令官交代式を執り行っている最中にもトラウト少佐がF15イーグル戦闘機を統率しイラン上空を飛行しており、またポール・ハーン大尉が空中警戒管制機で薬物取り締まり任務を遂行し、我々の戦車やヘリコプターが韓国で日々の任務を遂行し、彼らの作戦上での技術を研鑽しているのです。

第18航空団の任務遂行のための行動範囲及び重要性は、あらためて言うまでもありません。

私が皆様へ約束することは、複雑なことではなく、我々の人々を大事にし、そして姉妹軍及び地元の指導者達と手を携えて協力し、そのことにより我々が日本との二国間の関係を強化し続けながら、共存し繁栄していくことです。

仲宗根市長、山口助役、比嘉助役、基地の周辺地域社会と共に特別な関係を継続しながら、地元の指

導者の方々と共に仕事ができることを楽しみにしています。

第18航空団及び準構成部隊の勇敢な兵士諸君へ

兵士の士気は3つの部分から生じます：

1. 我々は、我々の国家と軍により、重要な任務の遂行の責任を引き受けています。
2. それをうまく遂行するために、我々は訓練を受けています。
3. 諸君の素晴らしい業績が、感謝され認識されていることです。

司令官として、明確に理解している私の役割とは、諸君のキャリアの中で、第18航空団での勤務が最上のものであるよう最善を尽くすことです。諸君は、直属の指揮官を評価することでしょう。そして私達も、評価されることを期待しています。

指揮官、将校諸君、曹長諸君、及び下士官長諸君、ノース家を歓迎してくれる暖かいチームに感謝しています。これからもチームを任務のために動機づけ、我々要員の業績を正しく評価し、生活の質の確保と家族の安寧を図り、我々の寛大なホストである沖縄の人々の良き隣人であるため、諸君と共に任務を果たすことを楽しみにしています。諸君一人一人と共に仕事をし、仕えることをとても光栄にそして嬉しく思っています。

### ゲーリー L. ノース准将略歴

ゲーリー L. ノース准将は、1976年に東カロライナ大学の予備役将校訓練プログラムの優秀卒業生として米空軍に入り将校に任官した。その後、ゴールデンゲート大学にて1984年に公共行政修士号を1986年に人材管理修士号を夫々取得した。又、国防大学にて国家資源戦略に関する修士号を取得した。

指揮官パイロットであり、F-4、F-15及びF-16機による総飛行時間3900時間。「砂漠の嵐」作戦及び「サザン・ウォッチ」作戦において合計54回の戦闘任務飛行を行った。

主要な経歴は次のとおり。

- 1976年～1978年：カリフォルニア州メーサー基地、航法訓練並びに電子戦将校訓練
- 1978年：フロリダ州ホームステッド基地、F-4E訓練
- 1978年～1979年：韓国クンサン基地、第35戦術戦闘飛行隊兵器システム将校
- 1979年～1980年：カリフォルニア州ジョージ基地、第561及び第563戦術戦闘飛行隊F-4Gワイルド・ウィーゼル電子戦将校

- 1980年～1981年：テキサス州リース基地、パイロット訓練
- 1981年～1982年：ニューメキシコ州ホロマン基地、戦闘機パイロット訓練、及びユタ州ヒル基地、F-16転換訓練
- 1982年～1985年：南カロライナ州ショー基地、第19戦術戦闘飛行隊訓練企画、兵装将校
- 1985年：ネヴァダ州ネリス基地、ファイターウエポン課程学生パイロット
- 1985年～1986年南カロライナ州ショー基地、第

363 戦術戦闘飛行群兵装将校

- 1986年～1987年：独国ラムステイン基地、第526戦術戦闘飛行隊F-16兵装将校兼フライトコマンダー
- 1987年～1989年：同上基地、在欧米空軍司令官副官兼F-16教官パイロット
- 1989年～1990年：ヴァージニア州ノーフォーク基地、軍幕僚大学学生
- 1990年～1993年：南カロライナ州ショー基地、第19戦術戦闘飛行隊作戦将校補佐、第363戦闘航空団「砂漠の嵐」作戦幕僚、第33戦闘飛行隊長

- 1993年～1994年：ワシントンD.C.フォート・マクネアー基地、軍産業大学学生
- 1994年～1996年：三沢基地、第35航空団作戦群司令
- 1996年～1997年：ワシントンD.C.空軍参謀本部統合作戦部副部長
- 1997年～1999年：ワシントンD.C.統合参謀本部部長付上級補佐官
- 1999年～2000年：韓国クンサン基地、第8航空団司令

### ロイド S. アターバック准将略歴

ロイド S. アターバック准将は、1975年にテキサス大学卒業後空軍に入り、将校に任官した。テキサス大学卒業により経営管理学士を取得した。1985年に指揮幕僚大学に入り、卒業後1986年にエンブリー・リドル大学で航空工学修士を取得した。

「砂漠の嵐」作戦では、戦闘飛行部隊指揮官として従軍した。総飛行時間2800時間の指揮官パイロットである。

主要な経歴は次のとおり。

- 1976年～1977年：オクラホマ州バンス基地、及びニューメキシコ州ホロマン基地でパイロット訓練
- 1977年：アリゾナ州ルーク基地でF-4Dの戦闘クレー訓練
- 1978年～1980年：沖縄嘉手納基地、第18戦術戦闘航空団第25飛行隊でF-4D戦闘指揮官並びに兵器戦術将校
- 1980年～1984年：フロリダ州マクディル基地、第13及び第62戦闘訓練飛行隊でF-4D及びF-16の教官パイロット
- 1984年～1985年：韓国クンサン基地、第8戦術戦闘航空団で教官パイロット並びに飛行安全将校
- 1985年～1987年：ハワイ州ヒッカム基地、太平洋空軍司令官監察官室
- 1987年～1990年：同上基地、太平洋空軍司令部人

事部

- 1990年～1991年：南カロライナ州ショー基地、第33及び第17戦術戦闘飛行隊
- 1991年～1993年：同上基地、第17戦術戦闘飛行隊長
- 1993年～1994年：アラバマ州マクセル基地、空軍大学学生
- 1994年～1995年：アリゾナ州ルーク基地、第56戦闘航空団飛行群副司令
- 1995年～1997年：ニューメキシコ州キャノン基地、第27戦闘航空団飛行群司令
- 1997年～1999年：独国ラムステイン基地、NATO 連合中欧空軍司令部米国代表
- 1999年～2000年：ニューメキシコ州キャノン基地、第27戦闘航空団司令

## 講演等の要望を募ります

### 「安全保障に関する日米関係」等

防衛協力のための指針や物品役務相互提供などに関する論議がしばしば行われる昨今、事務局では日米関係の現状や展望に関するより良い理解の

ため、主として基地周辺の皆様を対象とする講演、懇談会等を企画できるよう準備しています。ご要望あれば御一報下さい。 J A A G A事務局

# J A A G Aが日米隊員を表彰

米空軍創立記念式典 (AIR FORCE BALL) で

USAF 隊員 5 名、空自隊員 2 名を表彰

J A A G Aが毎年実施している日米隊員を表彰は、米空軍の創立記念式典 (Air Force Ball) に合わせて横田、嘉手納、三沢の各基地に於いて行われた。

J A A G Aは、6月末から横田、嘉手納、三沢各基地に所在する日米の部隊に対し、日米関係の友好親善に寄与した隊員の推薦を依頼すると共に、選考、表彰準備を実施してきた。そして9月9日には三沢基地に村木理事長、9月16日には横田基地に石塚

会長、嘉手納基地に横澤副会長が出向き表彰状と記念の盾を授与した。

J A A G Aの表彰式は既に米空軍の創立記念式典に合わせた在日米空軍の主要行事の一つになっており、米空軍隊員の中に J A A G Aの存在がかなり浸透してきている。このことは J A A G Aの目指す日米友好親善にも寄与しているものと考えられる。



A1C Yamaguchi and Lt. Gen. (Ret.) Yokozawa



MSgt. Calvin J. Vance and Gen. (Ret.) Muraki

被表彰者は次の通り。

## 【三沢基地】

MSgt. Calvin J. Vance (米空軍 第35 戦闘航空団第35 補給隊)

空曹長 仲鉢雅春 (空自 第3航空団整備補給群本部)

## 【横田基地】

1stLT. Mark B. Clifford (米空軍 第374 空輸航空団第374 補給隊)

SrMS. Loretta A. De La Paz (米空軍 第374 空輸航空団第374 通信隊)

SrA. Michelle D. Hudson (米空軍 第374 空輸航空団第374 運用支援隊)

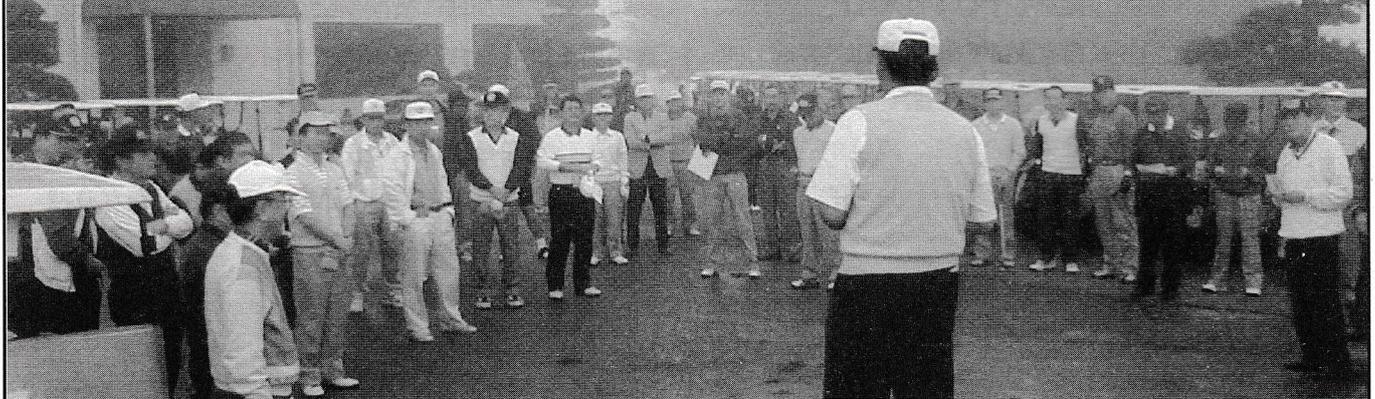
## 【嘉手納基地】

SrA. Leticia Poblano-Clark (米空軍 第18 航空団第633 航空機動支援隊)

空士長 山口大樹 (空自 南西航空警戒管制隊防空管制群)

# 日米親善ゴルフ大会 *SPORTEX'2000*

絶好の秋晴の下、和やかに腕を競い懇親を深める



SPORTEX Gathering at Tama Hills G.C.

第4回目を迎えた恒例の日米親善ゴルフ大会(SPORTEX'2000)は、10月24日(火)、米空軍多摩ヒル・ゴルフコースにおいて横田基地の米第5空軍司令官ポール・ヘスター中將を初めとする米空軍29名、JAAGA会員62名の総勢91名が参加して実施された。今回は、日本における公務員倫理規定の関係で航空自衛隊の現役の参加は中止された。

当日は、朝霧の残る0700、ショットガンスタート方式により、各ホールから一斉に競技を開始した。競技開始間もなく霧も払拭され、絶好の秋晴れのコンディションの下、日米混成で組まれた各グループは和気あいあいの中で、18ホールの好プレイ、珍プレイを競った。

競技終了後、クラブハウスに戻った参加者は、成績の集計を待ちながら各パーティー毎にテーブルを囲みハンバーガーを主体とした昼食をしながら懇談、ここでも和やかな雰囲気の下に今日のプレーの反省会が各テーブルで盛り上がっていた。昼食も終盤を迎えた頃、担当である後藤龍一理事のユーモアを交えた名司会で、成績発表が行われ石塚JAAGA会長から賞品が授与された。賞品授与は順位のみならず各種のユニークな賞が準備され、受賞のたびに歓声が沸き上がり、会の雰囲気は最高度に盛り上がった。また、指定ホールではドライビングコンテスト、

ニアピンも催されたが、結果はドライビングでは全て米軍、ニアピンは全て日本側JAAGA会員とお国柄を特徴づける結果もみられた。

ポール・ヘスター中將は、JAAGAが日米友好親善に多大の寄与をしていることに謝意を述べると共に、とりわけこのSPORTEXは日米の最大のイベントであるところの雰囲気称えた。石塚会長も、JAAGAは来年5周年を迎えるが、JAAGAが日米共同の架け橋としてお役に立てるよう、その活動を更に充実させたいとの趣旨で決意を表明し、実り多かったSPORTEX'2000を締めくくった。深まった日米の絆を確かめ合うように、爽やかに握手を交わしながら散会する参加者の満足げな表情が印象的であった。

成績は、次頁のとおりであった。



Chattering after lunch

## JAAGA SPORTEX'2000

## 表彰者名簿



## 個人順位表

## Awarding Ceremony

優勝	横幕 功	第 15 位	尾崎 利夫	第 60 位	Colonel Timothy Murphy
準優勝	CIV Ted Vector	第 20 位	近藤 五郎	第 65 位	吉岡 徹男
第 3 位	Brig General Dale Waters	当日賞	江藤 兵部	第 70 位	篠原 輝弘
第 4 位	MR. Vosburc	第 25 位	Lt Colonel David Harris	第 75 位	梅津 忠一
第 5 位	笠井 健介	第 30 位	柳 孝夫	第 80 位	SMSGT William Irvine
第 6 位	Lt General Paul Hester	第 35 位	柳谷 均	第 85 位	中島 紀義
第 7 位	後藤 龍一	第 40 位	Lt Colonel Eugene Pawlowski	B B	SSGT Derno McCary
第 8 位	菅原 淳	第 45 位	1st Lieutenant Kouji Gillis	B M	Captain Dean Orfield
第 9 位	吉田 武治	第 50 位	野村 亘康		
第 10 位	黒木 幹雄	第 55 位	尾形 明男		

## 特別賞

B/G	CIV Ted Vector	シルバー	長谷川 孝一
N/P #3	井上 洋	ヤングスト	1st Lieutenant James Meadows
N/P #7	横幕 功	ベスト	逸見 和子
N/P #11	北川 文夫	ドレッサー	CMSGT Gerald Murray
N/P #15	吉川 武秀	インプレッシブ プレーヤー	Major Mark Aicher
D/K #9	Captain Doug Ballinger		Colonel Brian Fisher
D/K #17	Captain Roger Johnson		Colonel Hugh Campbell

## ☆ 原稿募集 ☆

## ≪ 投稿ページ「投稿広場」 ≫

皆様からのフリーな投稿や、JAAGAの活動に対するご意見やご要望を頂戴し

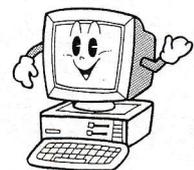
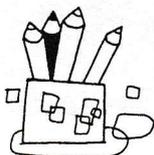
## 皆様と共に歩むJAAGA

として更なる発展を期していきたいと思ひます  
皆様のご貴重なご意見や各種投稿をお待ちしています

## 投稿受付

横幕 功 Tel 03-3286-0335 (新東亜交易)

Fax 03-3213-2405



# 日米共同訓練/コープノース 00-2

## 九州地区で戦技技量の向上と親善を深める

### J A A G Aも激励・慰問

航空自衛隊は、日米双方の戦技技量の向上及び日米共同対処能力の向上を目的に、8月28日から9月8日の間、九州地区において日米共同訓練を実施した。



Lt. Gen. Hester, at Nyutabaru AB

本訓練には、日本側から西部航空方面隊司令部(春日)、第5航空団(新田原)、第8航空団(築城)、西部航空警戒管制団(春日)、第2高射群(春日)等の西部航空方面隊の主要部隊の他、南西航空混成団の第83航空隊(那覇)、警戒航空隊のE-767(AWACS)(浜松)及びE-2C(AEW)(三沢)が参加した。米空軍からは、横田の第5空軍司令部、第374空輸航空団が、嘉手納から第18航空団、第82偵察航空隊が参加した。

訓練は、新田原基地及び築城基地を中心に九州西方訓練空域及び四国沖訓練空域で行なわれ、防空戦闘訓練、戦闘機戦闘訓練及び再発進準備訓練を実施した。



USAF and JASDF Fighters



USAF F-15

参加航空機は、空自側がF-15、F-4、F-1、T-4、E-767、E-2C、米空軍側は、F-15、E-3B、RC-135、KC-135、C-130であった。

日米共同訓練は、戦闘技術の向上を図り日米間の信頼醸成、友好の促進を図る上で極めて友好な訓練であり、航空総隊司令官大串空将及び第5空軍司令官ヘスター中將は、夫々相手側のF-15戦闘機に搭乗(Exchange Ride)し、訓練を視察すると同時にその重要性を強調した。

すっかり定着した共同訓練では、日米双方の隊員が息の合った共同作業に汗を流す一方、厳しい訓練の合間を縫ってバーベキューやレクリエーションで楽



Friendly BBQ

しみ、友好の輪を広げることも忘れなかった。

また、米空軍は、地域住民との友好促進にも意欲的に取り組んでおり、今回も新田原基地に展開した第18航空団の米隊員は、地元の少年硬式野球チーム「児湯スワローズ」と野球を通じて友好親善を深めた。



Base Ball Match, USAF vs Japanese boys

コープノース 00-2 は、技量向上と共に友好・親善にも大きな成果を上げて終了した。

なお、JAAGA は、友好・親善事業の一環として在福岡市在住の市来会員が小川春日基地司令を訪れ激励・慰問した。



Sayonara party

## … 新入会員の紹介 …

### 1 新入会員の紹介

#### (1) 正 会 員

(五十音順敬称略)

氏 名	〒	住 所	勤 務 先
尾崎 利夫	270-0114	流山市東初石2-81-20	東京航空計器(株)
岸谷 宏	590-0954	堺市大町1-1-17	室町エレクトロニクス(株)
木村 忠信	272-0123	市川市幸2-5-1-309	GHエジソン生命保険(株)
小吹 優	236-0033	横浜市金沢区東朝比奈3-16 E-503	
新谷 哲司	188-0004	田無市西原町4-5-37-6-706	
垂直永 斌	901-0334	糸満市大渡520	晴明病院
中司 崇	206-0824	稲城市若葉台3-1-1 B棟218	旭化成(株)
原 充男	175-0083	板橋区徳丸3-41-12-306	三菱電機(株)
松本 力	902-0063	那覇市三原1-31-20	琉球エアコピューター(株)
藤川 壽夫	359-1105	所沢市青葉台1253-4-404	(株)ダイカン

#### (2) 法人賛助会員

法 人 名	〒	住 所
(株)IHIエアロスペース 代表者; 篠原昭雄 (代表取締役社長)	100-8182	千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル7階
兼松エアロスペース(株) 代表者; 丸林克彦 (代表取締役社長)	105-0003	港区新橋1-7-2 虎ノ門高木ビル6階

### 2 訂 正

第11号「だより」の新入会員紹介欄に下記の誤記がありました。

謹んでお詫び申し上げますと共に訂正させていただきます。

・法人賛助会員 ボーイング・ジャパン社代表

(誤) 当麻晴彦 → (正) 当麻春彦

## 「つばさ会」訪米団同行所感

J A A G A 副会長

石川吉夫

9月9日から21日の間、恒例の訪米団に参加して米国内の米空軍施設の研修をしてきました。ワシントンでの防衛駐在官勤務から帰国して早や13年、この間纏まって米空軍基地を研修する機会がなかったので、この研修は新しい米空軍を理解する意味において私にとって大変興味深く又意義深いものでした。

研修先は米空軍協会総会と装備品展示会、国防省、統合参謀本部、空軍参謀本部（いずれもワシントン）、空軍テストセンター（カルフォルニア）、空軍士官学校、宇宙空軍（コロラド）、太平洋軍司令部、太平洋空軍司令部（ハワイ）でしたが、いずれの基地においても真摯な接遇を受け、かえって当方が恐縮する程でした。

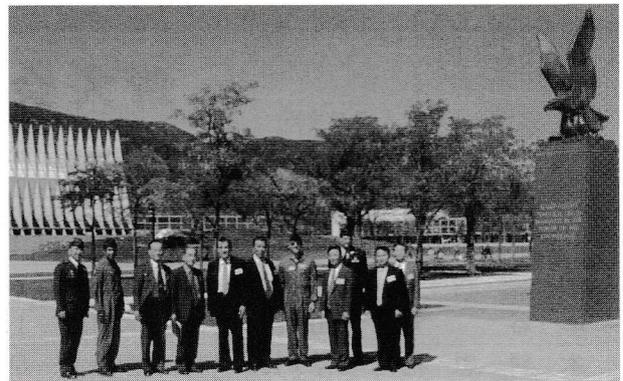
研修全般に関する報告はつばさ会から発刊される予定ですので、ここではJ A A G Aの会員としての個人的な所感のみを簡単に述べたいと思います。

### 1. 米空軍に対する全般的な所感

冷戦構造の崩壊に伴う軍縮の影響から完全に立ち直り、新しい空軍の建設と発展を指向して高い士気の下に真摯な努力が続けられており、その成果は確実に上がっているものと見られる。しかし米国内の好景気の影響で、リクルートとパイロットや技術者を含む有為な人材の部外への流出には頭を悩ましている様子である。

### 2. E. A. F (Expeditionary Aerospace Force)

E A Fは全世界において発生すると考えられる紛争に既存の編成に係わらず、各機能から抽出した臨時編成の部隊で、迅速且つ効率的に対処していこうという構想であり現在空軍参謀本部が真摯に取り組んでいる考え方である。確かに発生した紛争に最適な兵力を指向するという意味においては、特に二以上の紛争が同時に発生した場合非常に効果的であると考えられる。しかしながら我が国と違って割合ダイナミックに編成、装備、運用法等を変更する米空軍においても次に述べるような問題点が存在し、現地部隊等においては単なる机上のプランとして、未だ完全には支持されていない面があるように思える。



第一の問題点は、臨時編成の部隊であるだけに、顔も知らない指揮官の下で戦う場合に指揮官の指揮能力が十分に発揮できるかということと部隊隊員の士気が保てるかという点である。第二の問題点は、訓練の問題である。こうした臨時編成の部隊を運用する場合は相当な訓練を重ねる必要があるが、果たしてそれを可能にするだけの資源があるかということと、基本編成をもってする通常の訓練に多大な影響を与えるであろうということである。特に基本編成によって実施されている同盟国等との共同訓練又は演習に悪影響が出るのではないかということで、多くの共同訓練を実施している太平洋空軍ではこの点を懸念していた。

### 3. 宇宙空軍

米空軍の宇宙重視の姿勢は従来から言われてい

たが、今回宇宙空軍を訪問してその姿勢が益々強くなっていることを印象づけられた。コロラドのピーターソン基地及びその周辺の宇宙関係施設の拡充と充実には目を見張るものがあり、米空軍がいかにか宇宙を重視し多大な予算をつぎ込んでいるかということが歴然としている。また元在日米軍司令官のエヴァハート大將が従来米空軍で最も重視されていたACC (Air Combat Command) の司令官から宇宙空軍の司令官に着任したという事実もこれを物語っている。我が国においては防衛に関する宇宙利用は全くと言っていい程考えられていないし、また、今から短期間に宇宙関連技術をキャッチアップすることは不可能であろうと考えられる。

この点からも我が国の航空防衛においては将来宇宙をいかに活用していくかについて米空軍と緊密に連携し施策を講じていくことが肝要であると考えられる。

#### 4. 米空軍協会

米空軍協会は現役も含めた膨大な組織の下で、雑誌発行や保険業務等の大規模な収益事業と米空軍の強力な支援によって全世界的な活動を行っている。このため我が国におけるカウンターパートナーとしてJAAGAが行動することには相当無理があり、またJAAGA設立の趣旨にも必ずしも適合しないと思われる。これはつばさ会においても同様であろうと考えられるが、日米空軍友好を目的とするJAAGAとしては部分的にケースバイケースで米空軍協会と連携していくことも将来施策として考えていくべきであろうと思う。

#### 5. JAAGA

米滞在間に、元在日米軍司令官でありまた



JAAGAの設立と発展に深く関与していただいた統合参謀本部副議長マイヤーズ大將、宇宙空軍司令官エヴァハート大將始め最近まで三沢基地司令官のウッド准將に会ったときに全ての人からJAAGAは順調に活動しているかという質問を受け、その旨を答えると、異口同音に大いに期待しているので頑張ってくれという激励を受けた。その他最近まで日本勤務した多勢の人から同様のコメントを聞き、JAAGAの活動も地味ではあるが米空軍の中に確実に定着してきていることを実感し、JAAGAの設立に参画した一人として大いに意を強くした。

以上私の個人的見解に基づく所感を述べました。少々固い話ばかりになりましたが勿論愉快な話や失敗談も沢山あります。しかしこうした話は一杯入らないとうまく行かないのでまたの機会にしたいと思います。ただ一つ面白い話をしますと、マイヤーズ大將のお宅にディナーにお邪魔した時に、大きな犬(名前はタイショウ、イギリスのシープドッグだそうで毛の長い私ぐらいの大きさ)が出てきました。この犬に餌をやる時、目の前に餌を置き、先ず「アーミーチャウ(チャウとは餌のこと)」と言うと食べそうになってそこで思い止まります。「ネービーチャウ」「マリンコーチャウ」と言っても同様に「エアフォースチャウ」と言うとも初めてパクッと食べます。これを見て米空軍軍人の「Air Force is No.1」という根性の一端を見たような気がして非常に印象的でした。帰国して早速わが家の犬(名前はロン、非常に小さいミニダックスフンド)にトライしましたが飼い主に根性が無いのか、犬が馬鹿なのか全然駄目で遂に諦めました。

# 会 員 募 集

J A A G A は 2001 年 には 発 足 5 周 年 を 迎 え ます。 会 設 立 の 趣 旨 の 具 現 化 を 目 指 し て 大 い に 活 動 を 活 発 化 す べ き 時 と 考 え て お り ます。

会 員 相 互 手 を 携 え て、 新 世 紀 の 幕 明 け に 更 な る 前 進 を 図 る た め、 個 人 会 員 の 会 勢 拡 大 に 努 め て お り ます。 会 員 の 皆 様 の 勧 誘、 推 薦、 情 報 提 供 に 関 す る 御 協 力、 御 支 援 を 是 非 と も 宜 し く お 願 い 致 し ます。

な お、 個 人 会 員 に つ き ま し て は 次 の 通 り で す。 推 薦 若 し く は 情 報 提 供 を 頂 い た 方 に は 直 接 会 員 担 当 の 係 か ら 連 絡 さ せ て 戴 き ます。

## 【入会資格】

正 会 員 : 航 空 自 衛 隊 O B

個 人 賛 助 会 員 : 航 空 自 衛 隊 O B 以 外 の 方 で、 正 会 員 3 名 の 推 薦 が 必 要 で す。

## 【連絡先】

「郵便」 〒162-8785 東京都新宿区北山伏町1-5 牛込郵便局局留

日米エアフォース友好協会 会員担当行

「FAX」 03-5323-5555 村木裕世(横河電機(株))

「電話」 03-5323-5135 同上

03-3219-5638 細 稔(株島津製作所)

042-333-1229 壺岐紘記(日本電気(株))

03-3489-1120 尾崎利夫(東京航空計器(株)) ( )内は勤務先

## ワンポイントQ&A

### Q JAAGAとは?

**A** J A A G A は、 航 空 自 衛 隊 と 米 空 軍 と の 相 互 理 解 と 友 好 親 善 の 増 進 に 資 す る こ と を 目 的 と し、 現 役 の 皆 さ ん が 仕 事 を や り や す い 環 境 作 り に 寄 与 し よ う と い う 航 空 自 衛 隊 O B 主 体 の 組 織 で す。

### Q 協会の運営は?

**A** J A A G A は、 ボ ラ ン テ ィ ア に 徹 し 見 返 り を 求 め な い こ と、 及 び 努 め て 現 役 の 皆 さ ん に 負 担 を 掛 け な い こ と を 方 針 と し て 運 営 し て お り ます。 多 くの 皆 様 の 期 待 に 応 え る べ く、 さ ま ざ ま な アイデアを 取 り 入 れ、 活 動 の 幅 を 広 げ、 種 々 の 事 業 を 展 開 し て ま い り ます。

### Q 私も参加できますか?

**A** J A A G A は、 そ の 活 動 を よ り 活 発 に す る た め、 個 人 会 員 の 会 勢 拡 充 に 努 め て お り ます。 航 空 自 衛 隊 の O B の 方 は、 ど な た も 正 会 員 と し て 入 会 で き ます。 ま た 航 空 自 衛 隊 O B 以 外 の 方 で も、 個 人 賛 助 会 員 と し て 入 会 の 道 が あ り ます。